

淡水珪藻化石から推定される中新世以降の湖沼の生態学的特徴は何か？

齋藤めぐみ(科博)

淡水珪藻化石は中新世以降の湖成堆積物から豊富に産出する。それらを俯瞰すると、全世界(といっても南半球からの報告はほとんどない)に共通して大規模な群集の入替えが認められる。すなわち、前期中新世以前より産出する *Aulacoseira* 属に加えて、中期中新世には *Actinocyclus* 属が、鮮新・更新世から現在にかけては *Stephanodiscus* 属や *Puncticulata* 属などの *Stephanodiscuceae* 科が多産する。現在を含む更新世以降の淡水湖沼のほとんどは、氷期に発達していた氷床が退いたあとに形成されており、その多くが北半球の高緯度域に分布する。このような湖は *Actinocyclus* 属が優占していた中期中新世には存在しなかったはずで、氷床の発達と新しい生育環境の形成によって、*Actinocyclus* 属とは生態学的適応の異なる *Stephanodiscuceae* 科の優占を促したと推定される。